

保育所における 0、1歳児の造形あそび実践報告

中村光絵

和洋女子大学人文学部こども発達学科



1. 保育所における造形活動

学生時代は美術を専門に学んでいましたが、職業人としては、保育所保育士として多くの時間を過ごしてきました。保育者養成に携わるようになり、造形表現を遊びの中心に据えて、乳幼児の表現の面白さや一緒に過ごす楽しさを保育者を志す学生に伝えるべく、日々、模索しています。

筆者が保育者となったおよそ20年前、当時の同僚の多くは造形活動に苦手意識を持っていました。造形活動の中でも描画は、ほぼ毎月学年ごとに同じテーマで制作し室内に展示することもあり、子どもたちの作品を見ながらその指導法について相談を受けることが多々ありました。話を聞いていると、普段、一人ひとりの子どもの性格や好きな遊びなどについてよく把握している保育者にもかかわらず、描画となると「その子らしい表現」と言いながら「見る人(保育者)にとってわかりやすい表現」を求めているように感じていました。普段通りに見ればいいのにな、と不思議に思ったものです。

時代は移り変わり、現職保育者への研修や学生時代に体験的な学びを経た保育者が増えてきたことで、保育現場での造形表現に対する意識も変化してきていると感じています。しかし、保育所の役割が「家庭養育の補完」から「入所する子どもの保育」に加え、「入所する保護者に対する支援」「地域の子育て家庭に対する支援等」まで含まれるようになりました。当然、保育士に求められる専門性も広く深くなり、一言でいうと「大変」になってきているのではないのでしょうか。

さらに、平成29年度告示の保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領では3歳未満児の保育内容の充実が図られ、今後は乳児の遊びの充実がより求められています。かたちや色に触れ、感じる造形遊びは、配慮次第で乳児でも十分に楽しむことができます。本稿では、0・1歳児を対象にした保育所での造形遊びの実践の紹介と、担任保育者の造形活動に対する意識の変化に目を向けたいと思います。

2. 0・1歳児を対象とした造形遊び

今回の造形遊びの実践は継続した取り組みではなく、主な目的は保育者養成のための造形表現テキスト『子どもの造形表現－ワークシートで学ぶ－』の改訂¹⁾のための資料を得ることにありましたので、乳児の造形あそびをこちらが企画し千葉県内の私立保育所で実践させていただきました。しかし、筆者は、今回のような活動をきっかけに担任保育者に改めて造形遊びの意義を感じ、積極的に日常の保育に取り入れてほしいと思っていました。

造形遊びは2018年8月13～15日の3日間0、1歳児混合で実施しました。

夏季保育中のため、子どもたちも来たり来なかったりで当日にならないと月齢の構成がはつきりしません。事前に大まかにスケジュールは決めておくけれども、登園の様子を見て内容を差し替えることを担任保育者と申し合わせました。当日の朝、通常の保育準備と同じように、簡単な環境図を基に子どもの導線と大まかな保育者の配置、全体の流れを確認しました。環境は筆者が中心となり、時々担任保育者が手伝い、その様子を遠巻きに数人の子どもが見ているなか準備しました。



▲左から保育室前のテラスでの水遊びの様子／土粘土・絵の具遊びで使用した積み木など／寒天／わらび餅粉粘土

1) 北沢、畠山、中村『子どもの造形表現－ワークシートで学ぶ－ 第2版』(2019)開成出版

① 戸外での遊び

「土粘土遊び」と「絵の具遊び」のコーナーは水遊びと並行して行えるような環境にしました。土粘土に触るのは初めての子どもばかりでしたので、水遊びの前に全員を土粘土のコーナーへ誘導しました。予想通り、後ろ手に組み不安そうな子どもが多かったです。保育者も土粘土にほとんど触れた経験がなく、しかも戸外で粘土を共用して遊ぶ環境を用意したことがありません。保育者に促され、好奇心旺盛な H ちゃんがまず筆者と一緒に手をつなぎ土粘土の上を歩くと、続けて 1 歳児担任 A 先生が 2 歳の誕生日を迎えている M ちゃんの手をつなぎ歩き始めました。その後は表情が若干硬いまま数人の子どもが後に続きました。全く関心が向かない 0 歳児は粘土に触れることなく水遊びに向かい、気にはなるけれど直接触るのは抵抗がある様子で眺めている Y くんには、担任 B 先生が普段遊んでいる木の積み木を渡しました。B 先生が同じような積み木を持ち土粘土に押し付けると Y くんも同じように遊び始めました。ここまですると土粘土に触れたことのない先生も子どもと一緒に遊び始めます。少し触って満足した子どもは、手足を軽くシャワーで流してもらい、水遊びや絵の具遊びへ、粘土が楽しくなってきた子はそのまま遊び続けます。

絵の具コーナーは水遊びの奥にスタンプ遊びができるように準備しておきました。今回は壁にクラフト紙を貼りました。ウレタンスポンジ、食器洗い用スポンジ、爪ブラシなど小さな手でも握りやすいものを用意しておきます。水遊びと絵の具遊びは行ったり来たりは自由です。遊び始めて 30-40 分ほどで順次、室内へ戻り始めたので、筆者が水遊び用たらいの残り水を使って絵の具遊びの片づけを始めると、壁にぺたぺたしていた子どもがスポンジや皿を全て運んできてくれ、遊びながら一緒に汚れを落としました。

3 日目の「紙と水で遊ぶ」は、前日に室内で遊んだお花紙を透明な容器に入れ通常の水遊びの場所から少し離れた保育室の窓のそばに置き、水を加えて遊べるようにしました。前日に遊んだ時と同じ容器に入れてあったので、その時遊んでいた子はすぐに気がつき遊び始めました。砂場用の網なども用意し、流しては水を加え繰り返し遊んでいました。窓に張り付けて遊ぶ姿も見られました。

実施内容	
【1 日目】	
◆土粘土で遊び	(戸外：午前)
◆絵の具遊び：スタンプ	(戸外：午前)
【2 日目】	
◆土粘土で遊び	(戸外：午前)
◆絵の具遊び：スタンプ	(戸外：午前)
◆お花紙で遊ぶ	(室内：午後)
【3 日目】	
◆寒天遊び	(室内：午前)
◆水とお花紙で遊ぶ	(戸外：午前)
◆わらび餅粉粘土	(室内：午前・午後)



▲土粘土と絵の具遊びの写真は本文とは別日に撮影。少しずつ長い時間遊ぶ子が増えてきました。

▲絵の具遊びの後の片づけ、 ▲お花紙をぺたつ

② 室内での遊び

室内では寒天遊び、わらび餅粉粘土、お花紙遊びを主に行いました。

寒天遊びは当日の予定と時間の関係で 0 歳児が水遊びの準備をしている間に、1 歳児の物おじしない高月齢児 4 名で始めました。色のきれいさや楽しそうな様子を見て普段は物事に慎重な子どももお気に入りの遊びを止めて椅子に座りました。結局、1 歳児は全員参加しました。透明なクリアカップや牛乳パックを切り開き 7 センチ四方に切った板状にしたものを渡すと、入れ物に入れたり、手で握りつぶしたり、板で切ってみたりしていました。感触を楽しむ、形の変化を楽しむ、透明感のある色に気がつく、あるいは混色してみたりと思いいに遊んでいました。

わらび餅粉粘土遊びは、0、1 歳児と一緒に好きな遊びを楽しんでいる部屋にコーナーを作り、1 歳児から遊び始めましたが粘度の強さにびっくりし泣き出す子どももあり、1 歳児は 1 人しか残りません。そこへ「ずりばい」しながら 0 歳児の N くんが近づき机に体重をかけ立ち上がり夢中になって遊び始めました。N くんの様子を見て、残っていた 1 歳児の H ちゃんも気味悪そうな表情が消え、30 分近く遊んでいました。2 人の楽しそうな様子に興味を持ったのはもう 1 人、0 歳児の R ちゃんだけです。他の子どもは保育者が誘っても全く興味を持ちませんでした。

お花紙は、多くの子どもが興味を持ちました。最初に筆者が「ピリピリ」と言いながら切り始めると次々に手を伸ばし破いたり丸めたりし始めました。その後、おままごと遊びに展開したりと自分たちの遊びにうまく取り入れていました。口で触って感触を確かめている子もいましたが、誤飲してしまいそうなお発達段階子どもは担任保育士の判断でこの遊びに気がつかないように誘導されていました。



▲寒天遊び ▼左から、わらび餅粉粘土／お花紙をちぎる／友達と一緒に混ぜ混ぜお料理（積み木とプラスチック製の鎖を使って）



3. 保育者の振り返り

3日間、子どもの様子を見てその都度、打ち合わせや振り返りをしながら保育者と一緒に取り組みました。以下は保育者から聞き取った感想です。4か月後に伺った際にも、その後の造形活動について聞き取りを行いました。

【感想：実施直後】

- ・子どもだけでなく自分たちにとっても貴重な体験になった。
- ・寒天遊びでは、子どもたちの意外な面を見ることができた。例えば、お互いの様子を見ながら遊んでいるのに、とりあえず触る子、周りを見ながらその都度「見てー」と楽しそうにコミュニケーションをとる子、1色ずつ集め形を崩さないでのご満悦な子、触り心地を楽しみつつ色を選びながら遊ぶ子と、見せる姿がそれぞれ違っていたのは面白かった。
- ・とにかく夢中になっていて楽しそうだった。
- ・0歳児のNくんのずりばいの速さに驚いた。余程わらび餅粉がやりたかったのだと思う。
- ・1歳児の保護者から「子どもがすごく喜んで、家でたくさん話をしてくれた」と言われた。

【難しく感じたところ：直後】

- ・1歳児でも低月齢児では粘土を口に入れそうになる子がいた。目が離せない子が誰なのかある程度把握できる時期にならないといろいろな素材に触れさせるのは難しいように感じた。
- ・担任だけでは準備・片づけが大変そうなのでできないと思う。

【4か月後】

- ・絵の具遊びはあれから何回かスポンジスタンプやフィンガーペインティングをやっている。そういえば、11月末は5~6人に1枚の模造紙でフィンガーペインティングをしたが、手につくのを嫌がる子が全くいなかった。

3. 学生の学びにつなげるために

今回ご紹介させていただいた取り組みに学生は直接かかわってはいませんが、本学科の学生のほとんどが実習を経て保育者になります。実習での保育者の指導や姿が学生の進路決定に少なからず影響していることを考えると、現職の保育者が自らの保育を振り返り質を高めていくためには研修は欠かせません。今後このような機会を得たときに学生も共に行くと学生にとっては質の高い学びになると思います。盛んな探索行動が見られるようになった乳児が対象の場合でも、日常生活スタイルやリズムを保ちつつ実施する方が子どもの興味を引けているように思います。やみくもに生活の場を荒らすことのないよう、配慮する必要を感じました。

今の保育者は、様々な記録やきめ細やかな保護者対応などとても忙しくしています。直後の振り返りの中で、「自分たちだけではできないと思う」とありましたが、造形遊びに対する知識や経験不足だけではなく、物理的な難しさから出た言葉かもしれません。しかし、4か月後に伺うと、自分たちなりにアレンジして子どもと一緒に造形遊びを楽しんでいました。子どもが真剣にもの向き合い夢中になって遊ぶ姿を見せつけられると、大変なことが大変でなくなるのも保育者なのではないでしょうか。今回のような取り組みをきっかけに、保育者自身が造形活動への垣根を低くして子どもと造形遊びを楽しんでほしいと思います。そのような保育者や子どもの姿と、学生自身が夢中になって遊びこんだ経験が結びつくと、本質を見失わずに子どもと共に生活を楽しめる保育者を育てていくことにつながるのではないかと考えています。